



イエメン：イエメン軍の機能回復の試み

2015年2月19日、アル=ジャジーラ放送はイエメンのマフムード・サビーヒー国防相とフサイン・ハイラン参謀長が以下の通り人事を発令したと報じた。

氏名	役職
ファード・アブドラー・イマード	第3旅団 (=大統領府の警備を担当) 司令官
アブドラー・アブドゥルマリク・アッバース	第314機甲旅団司令官
アリー・ムハンマド・カフラーニー	兵站支援局長
ムハンマド・アリー・ハーシム・アッワーミー	補給局長

アル=ジャジーラの報道によると、この人事はフーシー派やサーリフ元大統領に近い人々を軍の要職に就ける措置である。その中で、カフラーニー兵站支援局長がサーリフ元大統領に近い重要高官と位置づけられている。その一方で、サビーヒー国防相は、イエメン軍がフーシー派の武装解除や2014年9月以来フーシー派が軍の拠点を占拠することによって奪取した兵器の回収などを定めた「平和と参加合意」の治安関連条項の実施を担うと表明している。

評価

アル=ジャジーラの報道では、イエメン情勢をフーシー派 (=シーア派の一派であるザイド派の信徒) によるスンナ派からの奪権運動であると印象付ける論調が目立つ。その一方で、今般の報道にもあるとおり、政局・軍の人事動向はサーリフ元大統領を支持する勢力の復権としての意味合いを帯びており、イエメン情勢を単純な宗派対立とする解釈のみでは情勢を見誤ることとなる。

現在のイエメン軍の課題は、組織を立て直して国の安全や治安を守る役割を回復することである。この点については、フーシー派のみならず「アラビア半島のアル=カーイダ」による軍の施設や拠点の占拠、兵器の奪取が相次いでおり、困難が予想される。また、シャブワ県などのイエメン南部では諸部族が「人民軍」を結成して独自にフーシー派と対峙する動きも生じつつある。一方、サナアでは国連の監修の下で政治過程の立て直しのためのフーシー派と諸政治勢力間の協議が行われており、フーシー派が解散を宣言した国会の処遇などについて合意の兆しが生じつつある。イエメンの国家機構は崩壊の危機に瀕しており、政府・議会・軍などの諸機関の機能回復が状況を改善する上で鍵となる。

(高岡上席研究員)

◎本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

◎各種情報、お問い合わせは中東調査会 HP をご覧下さい。URL : <http://www.meij.or.jp/>